

文教常任委員会記録

1. 開催日時

平成 30 年 12 月 11 日（火） 午前 9 時 59 分開議～午後 0 時 06 分散会

2. 場所

第 3 委員会室

3. 出席委員

委員長 帆秋 誠悟 副委員長 松本 充浩 委員 松木 大輔 委員 藤田 敬治
委員 仲道 俊寿 委員 福間 健治 委員 甲斐 高之 委員 高橋 弘巳
委員 川邊 浩子 欠席委員 なし

4. 説明員

三浦教育長

(教育部)

増田教育部長、佐藤教育部教育監、河野教育部次長、
佐藤教育部次長兼学校教育課長、池田教育部次長兼学校施設課長、
清水教育総務課長、西川体育保健課長、大石人権・同和教育課長、
永田社会教育課長、沖田文化財課長、坪根文化財課政策監、
御手洗大分市教育センター所長、菅大分市美術館長、長田美術振興課長、
岡本教育総務課参事、野田学校教育課参事、富川学校教育課参事、
小野学校教育課参事、新納学校施設課参事、笠置体育保健課参事、
板井体育保健課参事、清水体育保健課参事、河野人権・同和教育課参事、
山本社会教育課参事、河野社会教育課参事、庄社会教育課参事、
栗田文化財課参事、佐藤大分市教育センター参事兼副所長、
安部大分市教育センター参事兼教育相談・特別支援教育推進室長、
黒木教育総務課参事補、工藤学校施設課参事補、清水学校施設課参事補、
大坪社会教育課参事補、後藤大分市民図書館長、後藤美術振興課参事補

5. 事務局出席者

書記 山崎 敏生

○帆秋委員長

それでは、早速審査に入りたいと思います。

まず陳情の審査を行います。

継続審査中の平成 29 年陳情第 17 号、大分市への科学館設置に関する陳情、平成 30 年陳情第 7 号、大分市に総合的な科学館設立を求める陳情についてでございます。これらの陳情につきましては、関連がございますので、質疑までは一括で行いまして、討論、採決につきましては 1 件ずつ行ってまいりたいと思います。

それでは、執行部のほうで補足説明等があればお願いいたします。

○永田社会教育課長

前回の 9 月の議会以降、補足説明をすべきものはございません。

○帆秋委員長

補足説明は特にないということですが、これまでのことも含めまして、質疑等はございますか。

○仲道委員

県との連携の可能性について伺います。いただいた資料を読み上げますが、平成 30 年第 2 回定例会の委員会におきまして、大分県の平成 20 年度以降の科学館に対する考え方や動向についてということで、「平成

20年以降、大規模な施設を建設する案と小規模な施設で対応する案で各地の視察を行い、その検討結果として、平成22年に工業振興課が「O-L a b o」を現行の場所へ設置した。平成24年以降は社会教育課へ移行し、委託で運営している」という報告をいただいております。その後の県の動きに何か変化があれば教えていただきたいのと、県との連携の可能性について、答弁をお願いいたします。

○永田社会教育課長

これまで、県の担当部署であります社会教育課にも確認をしまいましたが、県としては平成24年以降O-L a b oの活用ということで、特にそれ以降新しい動きはないと伺っております。

県との連携につきましては、今後の協議になろうかと思いますが、具体的なものは今はございませんので、その部分についてどのような形で県に申し入れをするのかというのはまた今後の課題と捉えております。

○仲道委員

三浦教育長、科学館の場合、ポイントは2つあって、1つは資金の問題だと思います。もう一つは、どれだけ知恵が入ってくるかという問題があるかだと思います。

例えば高知みらい科学館は、総額が57億円かかって、そのうち補助金が3分の1入っています。ただ、大分市の場合、高知で入った3分の1の補助金の社会資本整備総合交付金は使えますが、ほかの3つの補助金については廃止されたり使えないということで、現状使えるのは国土交通省の社会資本整備総合交付金の1つです。それからもう一つは、地元産業界や企業からの協力を受けている事例も全国にはあります。

この2つの形の中でお金を持ってくるときに、大分市単費ではなかなか難しいのではないかという想像ができます。できるだけお金をかけたほうがよりいいものができるという前提のもとに話をさせていただいておりますが、ぜひ県との連携をまず模索をしていただき、あわせて地元企業からの資金調達ができないかということも模索をしていただきたいと思います。

もう一つ、人の問題です。これも間違いなく大勢の知恵が入れば、それだけいい科学館ができると思いますので、ぜひ県や企業と連携する中でたくさんの知恵、そしてお金を集めていただきたいと思います。まず県と国と地元企業と連携を模索し、それがだめであれば、市単費の中で幾ら拠出できるかということによって科学館の規模も必然的に決まってくるかと思っておりますので、まず夢を持って国、県、地元企業との模索ができるかどうか、三浦教育長のお考えをお伺いいたします。

○三浦教育長

今委員から貴重な御提言をいただいたものと受けとめております。県との連携というのは、これはもう必然でございます。これから先、先ほど社会教育課長が申したとおりでありまして、大分県社会教育課を含め関係部署と協議をしていくつもりでございます。

それから、資金につきましても、ただいまお話がございましたように、市単費のみの対応ではなくて、あらゆる可能性をこれから検討してまいりたいと考えております。

○仲道委員

ありがとうございます。以上です。

○帆秋委員長

ほかに質疑等はございませんか。

○高橋委員

仲道委員の発言で、地元の民間企業というお話がありましたが、やはり県との連携をする場合は、県下の企業の皆さんとの連携が必要になろうかと思っております。県となれば、大分県下の各市から子供も来られる。そういったものが魅力あるものになってくるとした場合、やはり広域で考えるようなこともしていかなければならないと思います。

私どもが視察に行った山形県では、いろんな企業が、県下の企業と連携してブースを持っていました。いろいろ最先端のことをやられていました。そういったことも含めて、最初は地元だろうと思っておりますが、やはり一体と

なってやるところもあるのではないかと思いますので、そのことも検討をお願いします。

○帆秋委員長

今に関連のそういう要望という形でよろしいですか。

○高橋委員

はい、要望という形で結構です。

○仲道委員

異議なし。

○帆秋委員長

そのほか質疑等、要望含めてございますか。

〔「なし」の声〕

○帆秋委員長

それでは、これより1件ずつ討論に入っていきたいと思います。

まず平成29年陳情第17号、大分市への科学館設置に関する陳情について、討論はございませんか。

○仲道委員

自由民主党は継続でお願いします。理由は先ほど質問したような内容からです。

○帆秋委員長

ほかに討論はございますか。

〔「なし」の声〕

○帆秋委員長

先ほど、両方も含めて関連の意見もございましたが、十分国、県との連携、企業との協力も模索する中で、方策を探っていただくための動きをまずしていただきたいという委員会の考えでよろしいですか。

〔「異議なし」の声〕

○帆秋委員長

それでは、継続を求める皆様方の全会一致ということでございますので、平成29年陳情第17号は継続審査ということで異議はございませんか。

〔「異議なし」の声〕

○帆秋委員長

それでは、異議なしと認めまして、平成29年陳情第17号は継続審査と決定いたします。

続きまして、次に平成30年の陳情第7号、大分市に総合的な科学館設立を求める陳情についての討論はございませんか。

○仲道委員

同じ理由で継続でお願いいたします。

○帆秋委員長

ほかの委員の皆さんはどうですか。同意思でよろしいですか。

〔「異議なし」の声〕

○帆秋委員長

継続審査という御意見のようでございます。それでは、平成30年陳情第7号につきましては、継続審査ということに御異議はございませんか。

〔「異議なし」の声〕

○帆秋委員長

御異議なしと認めまして、平成30年陳情第7号は継続審査と決定いたします。